

平成11年度 和歌山県名匠

【唐木指物師】

新田 義雄

(号 紀雲)

【現住所】有田市

【生 年】昭和19年

業績及び経歴

県内の工業高校卒業後、大阪の電機会社に就職するが、一生涯の仕事として指物の道を志し、昭和46年より指物師であった父に師事し、伝統ある唐木指物の技法を受け継いだ。

昭和55年の独立後、工芸作家の登竜門といわれる日本伝統工芸展への出品などを通じて、日本の伝統的な工芸の品格の高さや高度な技術に感銘を受け、独自の道を極めるべく精進を重ねた。

昭和58年に、全国伝統的工芸展の最高賞である「内閣総理大臣賞」を受賞し、昭和61年には日本伝統工芸展において「紀州の海をモチーフにした高度な象嵌の技術である」と高い評価を受け、初入選を果たした。

その後も、さらにその技術を磨き続け、和歌山県美術展覧会をはじめ、様々な展覧会において数々の入賞を果たすなど、その作品が全国的に評価され、平成元年には日本工芸会正会員に認定された。

氏の作品は、飾り箱や茶道具などに高度な象嵌を施したもので、好んで使う材料の紫檀が異彩を放っており、「今後も木の持つ温もりを大切にしながら、自分らしい作品を創っていきたい」とのお考えのもと、後世に残る作品を生み出すべく、新たな作品づくりに取り組んでいる。